

to + 動詞の原形

この形のことを、「不定詞(ふていし)」と呼びます。

そして、

動詞の ing 形

この形のことを、「動名詞(どうめいし)」と呼びます。

※動詞の ing 形は「現在分詞(げんざいぶんし)」という呼び名もあり、  
細かく言うと「動名詞」と「現在分詞」は意味が少し違います。これについてはまた後ほど。  
とりあえず、「動名詞」も「現在分詞」も、動詞の ing 形のこと ね♪

(^▽^)< このプリントでは、不定詞と動名詞の「関係」を見ていきますよ。

大きく分けると、

- ① 不定詞と動名詞が「同じ役割」をする
- ② 不定詞と動名詞を「使い分け」なければならない という2つの場合があります。

① 不定詞と動名詞が「同じ役割」をする

つまり、

to + 動詞の原形 = 動詞の ing 形

＼(^o^) このように考えて良い場面。

「不定詞(to + 動詞の原形)」の解説プリントの中の、その2 : 名詞的用法 を思い出してみてください！



to + 動詞の原形 が「～すること」という意味だったよね。

動詞の ing 形も、「～すること」という意味を表す時があります。

(・▽・;) ということは…？

「～すること」という意味じゃない時もある、ってこと…？



正解～！ 動詞の ing 形が「～すること」という意味の時は、「動名詞」と呼ばれるの。

{ ちなみに、同じ「動詞の ing 形」でも、  
「～すること」ではなく「～している」という意味で使われる時があり、  
その時は、「動名詞」ではなく「現在分詞」と呼ばれます。  
このプリントでは動名詞について見ていくよ。  
※「現在分詞」については、「進行形」「修飾という考え方」のプリントに出てくるよ(^o^)

## 不定詞と動名詞 &lt;ページ2&gt;

★では、どういう時に、動詞の ing 形が「～すること」という意味になる(動名詞と呼ばれる)のか？

■動詞の ing 形が、文の主語になっている時。

例) **Walking** is good for health. **歩くこと**は健康に良い。 ※health(ヘルス) = 健康

■動詞の ing 形が、be 動詞の後ろに来ている時。

例) My hobby is **listening** to music. 私の趣味は音楽を**聴くこと**です。

※ただし、この形は「進行形」の文の形と一緒に、「～している」という意味になることもあるので注意！

例) My mother is listening to music. 私の母は音楽を聴いている。

英文はさっきの文とほぼ一緒！ だけど動詞の ing 形の部分の意味は違う意味になる！

これは文全体の意味を「推測」して、どちらなのかをつかむしかない！

最初はちょっと難しいけど、英文をたくさん読んで慣れれば、すぐつかめるようになるよ♪

■動詞の ing 形が、一般動詞の後ろに来て、

その一般動詞の“目的語(「〇〇を」「〇〇に」、場合によっては「〇〇が」)”になっている時。

例) ★ I like **playing** the piano. 私はピアノを**弾くこと**が好きです。

(= ピアノを「弾くのが」と訳しても OK。)

★ He started (または began) **studying** math.

彼は数学を**勉強すること**を始めた。 = 彼は数学を勉強し始めた。

↳ 「～することを始める(始めた)」という言い方でも悪くはないけど、

「～し始める(し始めた)」という言い方のほうが自然だよね(^o^)/

※他に、「動詞が前置詞(ぜんちし)の目的語になる時、動名詞になる」というものもあるけど、それについては「前置詞」のプリントで。

さて、ここで「不定詞」解説プリントの中の **その2 : 名詞的用法** の例文を見てみましょう。

**To walk** is good for health. **歩くこと**は健康に良い。 ※health(ヘルス) = 健康

My hobby is **to listen** to music. 私の趣味は音楽を**聴くこと**です。

★ I like **to play** the piano. 私はピアノを**弾くこと**が好きです。(= ピアノを「弾くのが」と訳しても OK。)

★ He started (または began) **to study** math.

彼は数学を**勉強すること**を始めた。 = 彼は数学を勉強し始めた。

…上のほうの例文と見比べてみて！ **青文字**の語と**緑文字**の語、和訳、見比べてみて！

1つ抜き出すと、 **Walking** is good for health. **歩くこと**は健康に良い。 }  
**To walk** is good for health. **歩くこと**は健康に良い。 } 同じ！同じ！(≧▽≦)

これが、

**to + 動詞の原形** = **動詞の ing 形** = 「～すること」

＼(^o^) このように考えて良い場面。

■動詞の ing 形が、文の主語になっている時。

■ " be 動詞の後ろに来ている時。 ※「進行形」除く

■ " 一般動詞の目的語になっている時。 ※例外(次ページから参照)除く

to + 動詞の原形 に

置き換え可能! なのです♪

## 不定詞と動名詞 &lt;ページ3&gt;

さてさて、先ほど見た「不定詞」解説プリントの その2 : 名詞的用法 の例文には、続きがあるよね。

I want **to read** the new book. 私は新しい本を**読むこと**が欲しい = 私は新しい本を**読みたい**。

↳ 「読むことが欲しい」という言い方はしないよね。

want + to + 動詞の原形 は特別に「**～したい(したかった)**」と訳しましょうφ(^▽^)

I tried **to open** the window. 私は窓を**開けること**を試みた。 = 私は窓を**開けようとした**。

↳ 「開けることを試みた」という言い方も、全くしなくはないけどちょっと不自然…

try + to + 動詞の原形 は「**～しようとする(した)**」と訳すと自然だね♪

すると、これらも、

I want **reading** the new book. / I tried **opening** the window.

と、置き換え可能なのかな？ 置き換えても同じ意味になるのかな？

↓

答えは…「No!」「ダメ!」「×(バツ)!」

そのわけは、次の②を読んでみてねφ(^▽^)

## ② 不定詞と動名詞を「使い分け」なければならない

つまり、

**to + 動詞の原形** ≠ **動詞の ing 形**

＼(^o^) このように考えなければならない場面。

★「使い分け」のためには、「グループ分け」をするよ～！

1【後ろに ing 形】

2【後ろに to + 動詞の原形】

3【どちらでもよい(同じ意味になる)】

4【どちらもあるけど、意味が異なる】

《 ↓これらの一般動詞が、それぞれ、4つのグループのどこかに分類されるよ↓ 》

begin / decide / enjoy / finish / hope / like / start / stop / try / want

どのグループにどの動詞が入るか、次ページの解説を読む前に自分で調べたりできたら最高!(≥▽≤)

# 不定詞と動名詞 <ページ4>

では、まだあんまり説明してないけど、まずはグループ分けをしちゃうよ ㄣ(＾o＾)

1【後ろに ing 形】

enjoy finish

( stop )

2【後ろに to + 動詞の原形】

want hope

decide ( try )

3【どちらでもよい(同じ意味になる)】

begin start

like

4【どちらもあるけど、意味が異なる】

stop

try

★説明するよ！ これらのグループは、いったい何を意味するのか？

↳ 「それぞれの動詞の後ろに、どんな形の動詞が来るか」を意味しています ㄣ(＾▽＾)

となると、

例えば、前のページの『 I want reading the new book. と、置き換え可能なのかな？』に対する答えが「No!」「ダメ!」「×(バツ)!」だった理由が、説明できそうだね。

説明どうぞ♪ → want が、( ) だから。

(\*^▽^\*) …そう！ want が、( 2【後ろに to + 動詞の原形 (が来る)】グループの動詞 ) だから！

このグループに入っている動詞は、I want reading ~ のように後ろに ing 形は来ないよ。

※try はちょっと微妙な立場なので( )に入っています。

※want も実は微妙なんだけど、中学の段階ではそれは置いてよいです。興味ある人は高校生以上向けの辞書など見てみてね。

では、前の前のページに出てきていた例文(★印)で、

like や begin、start の後ろに「to + 動詞の原形」が来ても「動詞の ing 形」が来ても OK だった理由は？

説明どうぞ♪ → like や begin、start が、( ) だから。

(≥▽≤) …そう！ like や begin、start が、

( (後ろに来る動詞が)3【どちらでもよい(同じ意味になる)】グループの動詞 ) だから！ だね☆

前の前のページで、to + 動詞の原形 = 動詞の ing 形 = 「～すること」と考えて良い場面 の中に

■動詞の ing 形が、一般動詞の目的語になっている時。 ※例外(次ページから参照)除く

という条件がありましたね。この「例外」ということに関してまとめると、次のようになりますよ。

↓

◆ 英文の動詞がグループ1、2、4の動詞ならば、to + 動詞の原形 = 動詞の ing 形 ではなく ◆

◆ to + 動詞の原形 ≠ 動詞の ing 形 ! 「使い分け」が必要！ 超重要ポイント \ (＾▽＾) ◆

## 不定詞と動名詞 &lt;ページ5&gt;

★最後に、微妙な立場のグループ④について、説明しておこう。

④【どちらもあるけど、意味が異なる】

この言葉が示しているとおおり、例えば stop という動詞で言うと、

I stopped **smoking**. / I stopped **to smoke**. ※smoke は「たばこを吸う」という意味の動詞  
 どちらの英文も「あり得る」んだけど、それぞれの意味(和訳)を見てみると…

私は**たばこを吸うこと**を(吸うのを)やめた。 / 私は**たばこを吸うために**立ち止まった。  
 と、まさに【意味が異なる】状態になるの。

グループ③の動詞のように、

I like **playing** the piano. } 私はピアノを弾くことが(弾くのが)好きです。  
 I like **to play** the piano. } (ing 形でも to + 動詞の原形でも、どちらでも同じ意味) とはならないの。

ちなみに try の場合は、

He tried **opening** the window. 彼は窓を開けてみた。(ちょっとやってみた、という感じ)  
 He tried **to open** the window. 彼は窓を開けようとした。(何とか開けようと努力した、という感じ)  
 微妙～！(笑) 違いはかなり微妙だけど、それでもやっぱり、言っている意味は「違う」よね。

(・▽・) < それから、なぜ、stop はグループ①、try はグループ②に、( ) 付きで入っているのか？

中学校ぐらいの英語の問題に出てくる「頻度(ひんど)」= 出てくる回数、見かける回数、で言うと、  
 まず stop については stop + 動詞の ing 形 > stop + to + 動詞の原形 なの。

↑

数学に出てくる「不等号」ね！

つまり動名詞(動詞の ing 形)が後ろに来ていることのほうが多いの(私の感覚だとすごく多い)。

だから、「グループ①に入る」というイメージでも良いなという意味で、( ) 付きで入れました。

そして、

try については try + 動詞の ing 形 < try + to + 動詞の原形 なの。

↑

こっちは不定詞(to + 動詞の原形)が後ろに来ていることのほうが多いの。

私の感覚だと圧倒的に多い。中学英語で、try の後ろに動名詞(ing 形)が来ているのは  
 たぶん、ほぼ、見たことないです。

だから、「グループ②に入る」というイメージでほぼ良いなという意味で、( ) 付きで入れました。

※ただし、これらの感覚(出てくるのが多いか少ないか)は、教科書の内容が変わると変わるので注意！

(^▽^)< stop = ほぼグループ①、try = ほぼほぼグループ②、というイメージね。

微妙な立場のこの 2 つの動詞も含めて、グループ①～④、どうぞ覚えておいてね☆

\*\*\*\* 最終まとめ \*\*\*\*

どうでしたか？ 不定詞(to + 動詞の原形)と動名詞(動詞の ing 形)の「関係」、つかめたかな？

- ・ どんな時に **to + 動詞の原形** = **動詞の ing 形** なのか
- ・ どんな時に **to + 動詞の原形** ≠ **動詞の ing 形** なのか(そして、どう「使い分ける」のか！)

いま何となくつかめていることを、頭の中でさらに整理できるようになるためには、

何よりも問題練習！ φ(. . .;) どんな時にどうしたらいいのか、「実践的な力」をしっかりつけてね♪

(問題を解いたら、1 問 1 問、このプリントの中のどのことがらに当てはまるのかを確認してみてね。地道な積み重ねで力をつけよう！)